

豊潤の里 だより

法定値の最大1.8倍の「鉛」が検出

～ 本郷処分場から学ぶ ～

広島県は8月14日、本郷処分場から染み出た水に法定基準の最大1.8倍の鉛が検出されたと発表しました。県は、処分場の事業者であるJAB協同組合(東京)に廃棄物の搬入と埋め立てを中止するよう行政指導を行い、組合は搬入を停止しました。行政指導の勧告は昨年に続いて2回目です。

県産業廃棄物対策課によると、県は処分場内を通過した地下水と浸透水を7月24日に計3カ所で採取し、鉛が1リットル当たり0.018ミリグラムと0.017ミリグラムとなり、廃棄物対策法の基準値(0.01ミリグラム)を上回る結果が出ました。県は昨年6月にも同様に基準値を上回ったとして組合に勧告を出しましたが、勧告後も廃棄物を搬入・埋め立てを続けたとして、行政指導上最も重い「警告」を出した経緯があります。

今、日名内川・尾原川流域は「待ったなしの危険な状況」と聞きます。酷暑の中、地元の方が毎日自主的に水質検査を行っておられます。7月4日からBOD(水の汚れ具合を示す指標)が基準値の15倍の時が数回あったそうです。近くの農家5軒が稲の作付けを断念しました。下流域までも黒い泥土や薬品臭のする泡立った水が流れてきて、田んぼへの取水に困惑されています。

こういった状況を、警察署・三原市・県東部厚生環境事務所・県産廃対策課などへその都度通報し、「現状を見にきてほしい。搬入を止める等、対策を立ててほしい」と訴えていきましたが、「忙しい」「休日だ」とかの理由で、あまり来てもらえなかったそうです。そんな時、今回の法定基準超の「鉛」の検出で、「不安は的中!」。

ところが県は9月4日、事業者の同組合による廃棄物の搬入・埋め立ての再開を認めました。県は処分場近くで採取した水の水質が基準に適合したからと説明しました。組合の報告書によると、排水管の洗浄に使っていた処分場内の井戸水に基準値を超える鉛が含まれており、降雨の影響で

「一時的に浸透水の水質に影響した」としています。

では、そもそもなぜ、地下水に基準値超の鉛が含まれているのか、根本的な原因究明はされていません。いったん処分場ができれば、住民は泣き寝入りするしかないのでしょうか。これを讀まれた多くの皆さんは、何かがおかしいと思われたはずです。



<黒い泥土や薬品臭のする泡立った水>

※参照資料：「三原竹原市民による産廃問題を考える会」チラシ(写真も)、中国新聞記事

安芸津 バイパス「木谷トンネル(仮称)」工事始まる 安全祈願祭



工事の現況



撮影：2024.09.09

7月26日、国道185号線安芸津バイパスの木谷のトンネル工事の安全祈願祭が行われました。重松神社の大成景俊宮司が神事を行い、地元住民16名を含む53名が参列しました。

全長295mのこのトンネルは、東急建設(株)が施工し、完成は令和7年6月の予定です。安芸津バイパスは、平成17年度に着工し、全長6.1kmのうち現在1.5kmが供用されていますが、全線開通は未定です。安芸津バイパスに並行する185号線の区間は、津波が発生すれば浸水が想定されるため、早期の完成が望まれています。

トンネル工事は吉名側から昼夜兼行の二交代制で進められ、8月末現在入口から34m掘り進んでいるとのことです。

これから先230mは硬い溶結凝灰岩の山を貫くため、発破工法が用いられます。工事責任者の山口直也所長は「近くに民家がある現場なので、十分配慮しながら工事を進めていきたい」と語っていました。(取材：2024.09.09)

出演や出店で「ふれあい夏祭り」を盛り上げ



8月24日、第14回「あきつふれあい夏まつり」が、安芸津B & G海洋センターの多目的広場で開催されました。誰でも気軽に立ち寄り楽しめる“福祉の縁日”への参加者は3500名(主催者発表)でした。

木谷地域からは小学生が蛟龍太鼓を演奏し(左の写真)、露店は3グループが出店して祭りを盛り上げました(下の写真)。



炊き込みご飯(郷・西之谷サロン) スーパーボールすくい(木谷小PTA) 赤崎じゃがいも団子(赤崎サロン)

地域センター
主催講座

① 採れたて宇宙とかなた望遠鏡見学



8月8日、バスを利用して初めての講座開催。参加児童12名。特別に公開する日以外は天文台施設に入ることはできませんが、今回は公開講座として、広島大学宇宙科学センター附属東広島天文台の「かなた望遠鏡」を見学できました。

この望遠鏡は国内3番目の大きさとなる口径1.5mの光学赤外線望遠鏡。植村誠先生のわかりやすい説明に耳を傾けながら、4次元宇宙シアターで何十億光年の彼方までバーチャル宇宙旅行したあと、かなた望遠鏡を実際にのぞいて星を観察することもできました。子どもたちの目がキラキラ輝いていたのが印象的でした。

この望遠鏡は国内3番目の大きさとなる口径1.5mの光学赤外線望遠鏡。植村誠先生のわかりやすい説明に耳を傾けながら、4次元宇宙シアターで何十億光年の彼方までバーチャル宇宙旅行したあと、かなた望遠鏡を実際にのぞいて星を観察することもできました。子どもたちの目がキラキラ輝いていたのが印象的でした。

地域センター
主催講座

② 夏休み子ども料理教室



7月31日、5年ぶりの料理講座。「子どもたちに簡単で楽しく作れる料理を教えたい」と、木村加代子先生よりお話をいただき、今回の実施となりました。参加者11名。「かんたんパン」3種類（ミニ食パン、ソーセージパン、コーンパン）とメロンソーダを作りました。参加児童から「家族に焼いてあげたい」との感想も聞かれ、夏休みの思い出も香ばしくふっくら膨らんだことでしょう。

とでしょう。

木谷フェスティバル(10/20)

《募集》中・高・大学生ボランティア

あなたの協力が「伝統の秋祭り・大名行列」を盛り上げます

ご協力いただいたボランティアの皆さまには、当日有効の食事券・飲物券をさしあげます。

◎ 申込みは木谷地域センター(0846-45-0105)まで



部会活動紹介

福祉生活部会



8/3 熱中症予防啓発の友愛訪問

熱中症が心配される猛暑の夏が到来。熱中症予防にはこまめな水分補給が有効とされます。そこで自治協と木谷地区社協蛟龍が、麦茶入りのペットボトルと緑茶のど飴、熱中症予防の啓発チラシとを準備し、区長さんの協力を得て308名の高齢者に届けました。

＜自治協・区長・木谷地区社協 蛟龍＞

木谷自治協事務局



8/12 カニカニ大調査 ～龍王住民自治協議会との共催～

木谷の川の河口には、絶滅の恐れのあるハクセンシオマネキだけでなく、アシハラガニやコメツキガニなど様々なカニたちが生息していて、毎年観察会を実施しています。今回の企画は、その取組を伝え聞いた龍王住民自治協議会の三宅事務局長さんが、「山の子たちに海の体験をさせてやりたい」との思いから実現しました。龍王小学校低学年の親子、大学生・市職員と両自治協のスタッフ合わせて総勢約60名。参加者全員が半日、カニとの出会いを求め、充実した時間を過ごすことができました。多くの方が木谷の素晴らしさを体験し、木谷に興味関心をもたれたと実感しています。また人と人との出会いも多くあり、感謝しています。なお「木谷はっけん野あそび会」代表の古本敦子さんには、カニの種類や生態について分かりやすく説明していただきました。



局長さんが、「山の子たちに海の体験をさせてやりたい」との思いから実現しました。龍王小学校低学年の親子、大学生・市職員と両自治協のスタッフ合わせて総勢約60名。参加者全員が半日、カニとの出会いを求め、充実した時間を過ごすことができました。多くの方が木谷の素晴らしさを体験し、木谷に興味関心をもたれたと実感しています。また人と人との出会いも多くあり、感謝しています。なお「木谷はっけん野あそび会」代表の古本敦子さんには、カニの種類や生態について分かりやすく説明していただきました。

＜11月までの各部会の主な活動予定＞

福祉生活部会	10月 5日(土)	福寿の会＜木谷小屋内運動場＞ (福寿の会実行委員会)
教育文化部会	10月 20日(日)	木谷フェスティバル＜砂原公園＞ (木谷地域まちづくり実行委)

木谷の人口 (住民基本台帳)	世帯数	人口	男	女
令和6年(2024)8月末現在	677	1409	683	726
令和5年(2023)8月末との比較	-10	-23	-19	-4